

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		百貨店（売場担当）	・市内の神社で60年に一度の大遷宮があり、観光客も増加する。それに伴い地元の人でも外出回数が増えて服を買ったりするので、景気が上向く。
		スーパー（管理担当）	・新店をオープンし、既存店の顧客が分散することなく、きちんと新規顧客の獲得ができています。販売量も顧客買上点数の増加もみられるため、今後も伸びる。
		コンビニ（エリア担当）	・2～3か月先に大型スーパーの出店が見込まれている。若干オーバーストアぎみではあるが、食品製造もやっている当社にとっては、かなりの売上増が見込まれる。来月また価格改定の予定があるが、それが売上にどう影響するかが気掛かりだが、若干の寄与にはなりそうである。
		家電量販店（店員）	・ボーナス時期で需要が高まり、またオリンピックや地上デジタル放送が追い風になる。
		乗用車販売店（統括）	・時期的なこともあるが、元々全般的に需要自体はあるので、6～7月にかけては需要時期でもあり、伸びていく。
		乗用車販売店（サービス担当）	・6月は例年販売数量が伸びる月であり、セダン系のフルチェンジもあるようなので、少しは良くなる。
	タクシー運転手	・5月に入ると農家は忙しく、この関係の客が減ると思われるが、観光については多くの受注を受けている。当地においては、開府400年祭、出雲大社遷宮、NHK朝の連続ドラマの舞台等いろいろな形で明るい材料があり、客の動きも増えて好転する。	
	通信会社（販売企画担当）	・6月から新商品が発売され、市場が活性化すると思われる。	
	変わらない	商店街（代表者）	・これからいろいろなイベントなどを実施する予定だが、商店街としての店舗構成や空き店舗数のこともあり、景気が良くなる事は考えにくい。
		商店街（代表者）	・ガソリン代の値上げが続けば、車での外出を控え、地元で購入することが多くなると思われるが、諸物価の値上がりと相殺になる。
		百貨店（営業担当）	・生活必需品の値上げは続き、家計に及ぼす影響は今後も続く。婦人服業界では、大きな流行の変化もなく、買い換え需要も起こりそうにない。
		百貨店（営業担当）	・競合商業施設のオープン景気が落ち着く可能性はあるが、自店の売上基調が浮上する具体的要因が見えないため、現状とほぼ変わらない。
		百貨店（販売促進担当）	・ゴールデンウィークにかけ、地域で大型イベントがあり県外からの来客数が増加し、これが売上増につながるという期待感はあるが、5月よりガソリンの再値上げも予測されるので、消費環境が抜本的に良くなるらない。
百貨店（購買担当）		・当百貨店はどちらかというと、若い客より年配の客の来店が多い。このまま物価や衣料品の値上げが続くと、贅沢品や日用雑貨も、百貨店よりスーパーへ流れる傾向が強くなる。	
スーパー（店長）		・このところ、店内外に大きな環境変化はなく、ここ数か月はずっと同じような状態が続いている。これからも当分は同じような状況が続く。	
コンビニ（エリア担当）	・原材料費高騰による価格上昇のため、消費者の節約志向はますます高まり、このままの状況がしばらく続く。		
衣料品専門店（地域ブロック長）	・春物から初夏物への動きがずれ込んでいて、そのまま売場で春物の在庫が圧迫し、夏物に影響が出る。		
衣料品専門店（地域ブロック長）	・スーツ販売客数が急激に伸びることはない。		
家電量販店（店長）	・これからエアコンの季節になるが、単価の安い商品は動くが、高額商品の動きはない。		
乗用車販売店（統括）	・販売台数ではこの何年間前年割れが続いており、将来も良くなる材料がない。		
乗用車販売店（販売担当）	・暫定税率の問題など、政治の先行不安が、消費者の購買意欲を盛り上げない。		
自動車備品販売店（経営者）	・部門的に見ても好調な部門や不調な部門があり、全般は辛うじて前年を上回るような動きが続いているが、これも販促の効果でしかなく、景気全般の好転によるものではない。このような一進一退の動きが続く。		
高級レストラン（スタッフ）	・予約状況は月によって、良かったりそうでなかったり差が大きく、平均すると前年並みである。		

	一般レストラン（経営者）	・フラワーフェスティバルの最中は伸びるが、一時的なもので長期的には今の傾向が続く。
	その他飲食〔ハンバーガー〕（経営者）	・原材料の高騰により、値上げをせざるをえない状況がくる。ガソリンの再値上げもあり、外出、外食も控え目の傾向となる。
	都市型ホテル（経営者）	・宿泊の予約数が前年同期との比較で、5%程度落ち込んでいる。
	都市型ホテル（従業員）	・宿泊の予約状況は、4～6月まで前年並みとなっている。
	通信会社（総務担当）	・契約者数増加のための好材料が見当たらず、このまま低い水準で推移する。
	テーマパーク（業務担当）	・ガソリン税の問題の先行きも不透明で、車での来客が9割を占める当施設では多少の影響がある。少なくとも上昇する要素はない。
	美容室（経営者）	・生活物資その他の高騰で、美容室関係が、この先良くなるとは思えない。
	設計事務所（経営者）	・景気の先行き不透明で、消費者の動きも余り期待できない。
	住宅販売会社（販売担当）	・物価上昇傾向により、客の家を建てようという意欲が低下しており、売上が増加しそうにない。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・値上がりや食の不安などのために、購買意欲が向上する可能性は少ない。
	一般小売店（経営者）	・政治不信も重なり、値上げも非常に生活を圧迫している。将来の不安感が大きく、消費意欲が鈍る。
	一般小売店〔印章〕（営業担当）	・仕入れ価格のアップにもかかわらず、商品の値上げは難しく、厳しい経営になる。
	百貨店（販売促進担当）	・食料品等の価格が上がり、賃金が上がらなければ、洋服・外食を抑えるため、現在の食料品等の値上げが一段落するまで、洋服、外食の売上増は期待できない。
	百貨店（売場担当）	・6月上旬に、久方ぶりの大型郊外店が、近隣にオープン予定であり、しばらくの間は影響を受ける。
	スーパー（店長）	・今後も商品の値上げが続くなか、高齢者医療費の負担増や暫定税率の復活、原油の値上がりによる燃料の高騰などの外部要因も加わり、売上が増える状況にはない。
	スーパー（店長）	・商品の値上げがめじろ押しで、客の買い控えが予想される。
	スーパー（総務担当）	・食品では既に値上げ発表されたメーカーも多数あり、ガソリンも暫定税率の復活が見込まれているため、食料品の節約や買い控えと、来店頻度の減少は避けられない。
	スーパー（経理担当）	・このままでは先行きへの不安が広まり、客の消費もいよいよ停滞していく。
	スーパー（財務担当）	・価格の引上げが今後も続くものと思われ、消費者の買い控え傾向が強くなる。
	スーパー（経営企画）	・食品の値上がりにより一品平均単価は前期比102.26%となった。今後この傾向が続くと、家計は苦しくなり、消費は抑制される。
	スーパー（販売担当）	・パターの品不足、また海外での穀物の不足が伝えられており、今後商品の品ぞろえにどう響いてくるのか不安である。
	コンビニ（エリア担当）	・市場はオーバーストア気味に推移していながら、更に異業種の出店もある。この傾向はこれから速度を増し、更に悪くなる。
	コンビニ（エリア担当）	・ガソリン・食料品を始め、各種商品の値上げが考えられ、客はいろいろな部分で出費を抑えていく。
	コンビニ（エリア担当）	・収入が増えないなか商品の値上げが続く、多少不便でもスーパーやディスカウントショップを利用するなど、コンビニ離れが起こる。
	衣料品専門店（販売促進担当）	・昔からの客の購買頻度自体が減っていることが目立ち、いろいろな店を回ってどこで安く買えるか探す人が増えてきた。客の財布のひもはかなり固くなっている感じなので、まだまだ厳しい時期が続く。
	家電量販店（店長）	・諸物価の高騰が原因で、客の買い控えはこれからも続く。
	家電量販店（店長）	・諸物価の高騰により、商品の需要が冷え込む。北京オリンピックも中国の国内情勢が批判を浴びており、薄型大画面テレビ、DVDレコーダーなどの需要が思ったほど盛り上がりません。仮に盛り上がったとしても、単価ダウンによる販売額減は補えない。
	住関連専門店（広告企画担当）	・来客数が減少し、単価も上昇しない状況が続く。

	一般レストラン（店長）	・客単価の低下が続いているにも関わらず、原材料費の高騰が続くため、やむを得ず5月から一部値上げを余儀なくされている。一時的に客単価は上がるが、その後が心配である。
	一般レストラン（店長）	・来月、近隣に新規で複合施設が出店すること、また暫定税率復活でガソリン代が値上げになるとのことで、来客数が減少する。
	都市型ホテル（スタッフ）	・食材の仕入れ価格の上昇により、飲食店では今後苦勞しなければならぬ状況が当分続く。かといって、値上げをすれば来客数の減少にもなりかねない。
	通信会社（企画担当）	・地方中小都市の客は、見通しが明るくなる施策などが現実に見えてこない、自力で現在の停滞感を打破、脱却することは難しい。初夏にかけてよいニュースは無い。
	通信会社（通信事業担当）	・様々な物の値上げが相次ぐなかで、月々の固定費用が掛かるサービスについての導入は、極めて慎重になっており、しばらくは様子見の状況が続く。
	テーマパーク（財務担当）	・ガソリン価格もまた値上げされ、物価上昇等の影響は無視できないレベルになることが予想されるため、来客数への影響は免れない。
	テーマパーク（広報担当）	・客の構成が近場の住民にシフトしているが、人口集積が少なくいずれ頭打ちになりそうである。
	美容室（経営者）	・同業者間の話で、以前は「どここの店は忙しい」という話題があったが、最近は全くそんな話は出ず、どここの店も暇なようである。先行きが懸念される。
	設計事務所（経営者）	・所得の伸び悩みまたは減少状態が続く限り、回復の要素が見受けられない。
	設計事務所（経営者）	・建築基準法の改正により、プロジェクトが長期化しているなか、建設資材価格の高騰が続くので、事業計画が立ちゆかなくなっていく。
悪くなる	商店街（代表者）	・商店街や業界の話聞いても、これからも良くなる要素がなく、不安な毎日を送っている。何か打開策が欲しいものである。
	商店街（代表者）	・物価の上昇、年金不安によりますます景気、特に地方の景気は悪くなりそうである。当然、商店街の景気も良くなるわけがない。
	一般小売店〔茶〕（経営者）	・世の中全体のムードが悪すぎる。税金・年金いろいろな面で問題が多く、特にお茶は年配の方が良く飲んでくれるが、その高齢者の消費動向がどんどん悪くなっていく。また、当社でも生き残りをかけて、海外へも進出しようとしているが、その時感じることは、日本と海外との景気の差である。日本にいと閉塞感を感じるが、海外特に東南アジアは明るく活発である。
	百貨店（売場担当）	・ファンド系大手靴問屋の民事再生法の影響もあって、国内主力メーカーの生産が落ちる。店頭売行きの悪さも重なって、商品確保がますます困難になる。
	コンビニ（エリア担当）	・2月末くらいに、近所に新しい道が開通して車の流れが少し変わったようだ。そのためと、工事関係の客の減少で、これからも悪くなる一方となる。
	衣料品専門店（経営者）	・原油価格の高騰、物価の高騰により買い渋りが増える。
	その他専門店〔布地〕（経営者）	・同じ商圏にある大型施設が、7月に大型増床してオープンする。そのため、小売業全体の売上が減少する。
	その他専門店〔書籍〕（従業員）	・更なる出店競争がある。需要は増えないが、供給する側が増え続けている。
	住宅販売会社（従業員）	・来場する客の反応が悪化してきているので、今後も受注減は避けられない。
企業動向関連	良くなる	
	やや良くなる	
	変わらない	
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）
	鉄鋼業（総務担当）	・アジアを中心に、世界規模で需要は引き続き堅調に推移するものと予測している。生産面については、フル操業が見込まれるが、過去に例をみない原材料高のために、顧客に鋼材価格の大幅な改訂のお願いをしなければならなくなるなど、収益面では予測できない状況である。
	金属製品製造業（総務担当）	・更なる原材料価格の上振れ懸念があり、秋には客へ再度値上げ交渉を行わなければならない可能性も残している。客の受注動向、為替など読みきれない面も多いが、2～3か月先はこのまま推移していく。

	一般機械器具製造業 (経営企画担当)	・長期にわたり国内市場の悪化が続いており、売上の減少は当面続く。	
	電気機械器具製造業 (総務担当)	・先行き明るい様子がみえてこない。エアコンも生産が減少する時期にあたり、人員削減も視野にいれる必要がありそうである。	
	建設業(経営者)	・先月は改正建築基準法の関係等で、落ち込んだものが若干改善されるのではないかと見込んでいたが、それとは別に、ガソリン税等の問題で、公共事業等のこれからの動向が大変悲観的にならざるをえない。今後もこのまま悪いままに推移してしまいそうである。	
	通信業(部門長)	・製造業や運輸業においては、5月初めの暫定税率の如何によって、業績が大きく左右され、これによっては通信業界においては、多少の買い控えがある。	
	通信業(営業企画担当)	・法人向けサービスの商品種類は最近大きな変化がなく、顧客側にとってもNGNや次世代モバイル系サービスなどの方向を見定めたいとの意向が働いており、積極的なシステム更改等は当面期待できない。	
	金融業(業界情報担当)	・米国経済は減速しているが、欧州・アジア圏では引き続き堅調で、当面は高水準の受注を維持する。	
	不動産業(総務担当)	・来客数及び成約数は、ほぼ横ばいとなる。	
	会計事務所(職員)	・公共事業関連は相変わらず不振だが、企業は諸経費を絞るなど、悪いなりに対応している。売上高が伸びるといった明るい見込みはないものの、悲観的になるような悪い要素も見当たらない。	
やや悪くなる	食料品製造業(総務担当)	・ものづくりのなかで、光熱費の上昇と原材料費も掛かりすぎており、更に急騰する可能性もある。大変不安である。	
	化学工業(総務担当)	・他企業の動向も先行きが見えず、債権管理に以前より注意するようになってきている。	
	輸送用機械器具製造業 (経営者)	・クライアントに自動車関連の企業が多いため、最近の円高、またガソリン代の再値上げなど、生産台数が下降するのではないかと思われ、受注も下降する。	
	輸送用機械器具製造業 (経理担当)	・特に北米での自動車販売台数が減少しており、開発スケジュールに関して、延期・中止が多少発生している。	
	輸送用機械器具製造業 (総務担当)	・受注量・生産高共に横ばいの状況が続くと思われるが、原材料価格の上昇、特に鋼材、あるいは材料持ちの外注費などの高騰が予想され、また人件費負担や為替の動向など不透明な要因をかかえ先行きは大変懸念される。	
	建設業(総務担当)	・鋼材を中心とした資材の値上がりがある。	
	金融業(営業担当)	・土木建築業関係は、公共工事の受注の関係もあり、これからますます悪くなり、資金繰りが悪化して倒産する業者も出る。設備投資まで手が回らず、機械類を買うにも中古品に目が行き、その取り合いである。最終的には、体力のあるところは生き残るが、その他のところは淘汰されていく。	
悪くなる	コピーサービス業(管理担当)	・業界の動きが悪くなる時期と、物価上昇の時期が重なって、コスト増の吸収が困難となる。	
雇用 関連	良くなる	-	
	やや良くなる	求人情報誌製作会社 (担当者)	・内定者の歩留まりに不安感があることから、新卒採用について追加の対策を考える会社が多い。
	変わらない	人材派遣会社(支店長)	・5月度の登録者数予約が、対前年と比べ余りそん色がない。
		職業安定所(職員)	・新規求人数は減少しているが、これは派遣求人の適正化によるものとみられる。今後の求人数の増減は不透明である。
		学校[短期大学](就職担当)	・求人件数については昨年と変化がない。今後に期待をした。
	やや悪くなる	人材派遣会社(営業担当)	・社会保険料負担の増加や広告費の上昇により、企業の経営環境が厳しくなり、求人にも影響が出る。
		職業安定所(職員)	・原油価格高騰の影響で材料費が上がるなか、即販売価格に転嫁できない事情もあり、今後の対応に頭を悩ませている企業が数多くあり、結果として求人意欲が冷え込みつつある。
		民間職業紹介機関(職員)	・技術系や医療系の人材の求人は相変わらず多いが、母集団がもともと少ないために、全体への影響は少なく、その他の正社員での求人数が、前年同期より20%前後減っている。
	悪くなる		